

# 中間財の代替可能性が経済復興過程に及ぼす影響

中野 一慶<sup>1</sup>・多々納 裕一<sup>2</sup>

<sup>1</sup> 京都大学大学院情報学研究科 (〒611-0011 京都府宇治市五ヶ庄)

E-mail: nakano@imdr.dpri.kyoto-u.ac.jp

<sup>2</sup> 京都大学防災研究所社会防災研究部門 (〒611-0011 京都府宇治市五ヶ庄)

E-mail: tatano@imdr.dpri.kyoto-u.ac.jp

ある企業の生産減少が別の企業の生産の減少につながる現象はカスケード効果と呼ばれ、災害による被害を拡大させる要因の1つである。本研究は災害復興過程においてカスケード効果の生じる要因を明らかにする。本研究は中間財が代替的な場合と非代替的な場合の災害復興過程を比較し、中間財の代替性の有無がカスケード効果の発生の要因となることを示す。そのために最終財を生産する部門と中間財を生産する部門を持つ経済成長モデルを構築する。考察の結果、被災企業が生産する財が非代替的であることは、被害の波及効果のみならず、復興の投資が早く行われ経済の復興が迅速化する効果を持つ可能性があることを示す。

キーワード：カスケード効果，経済復興過程，経済成長理論，中間財の代替可能性